令和８年度　奥州市立前沢中学校　学校経営全体構造図

【時代の要請】
・「持続可能な社会の創り手の育成」
・「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」

【法規･法令　等】
・日本国憲法
・教育基本法
・学校教育法
・学習指導要領
・岩手県教育振興計画
・奥州市教育振興基本計画（後期計画）

【学校教育目標（校訓）】
自主 独立　　誠実 友情　　健康 活力

【みんなで目指したい学校像】
通いたい学校　通わせたい学校　勤めたい学校

【地域の願い】
・地域活性化、地域貢献
・安心安全な地域づくり

【生徒の実態】
○自己肯定感の高さ
○素直で明るい 笑顔と挨拶
○仲間意識の強さ
▲受け身の姿勢
▲メディアとの接触時間の長さ
▲基礎学力、読解力、表現力（根拠を元にした説明力）

【目指す生徒像】
〈自主･独立〉自ら学び、正しく判断する生徒
〈誠実･友情〉思いやりがあり、互いに助け合う生徒
〈健康･活力〉心身共に健康で、逞しく生きる生徒

【目指す学校像】
通いたい学校
通わせたい学校
勤めたい学校

・生徒が安心して良い習慣を身に付け、楽しく学び自分の成長を感じ、通いたいと思える学校
・保護者、家族が安心して預けられ、子どもの進路実現を託せ、通わせたいと思える学校
・本校に勤める職員が、同僚と共に楽しくやりがいを感じ、勤めたいと思える学校　　など

【学校経営の基本方針】
○知徳体の調和のとれた人間形成を重視した「生きる力」の育成
○「自己肯定感」（自己有用感＋自己効力感）の向上
○「生徒指導の４視点」を大切にした実践
○他者理解・共生の意識を持った「人権意識」の育成
○地域から信頼される学校経営

【あるべき教師像】
〈修養〉
・分かりやすい授業
・研究と修養
・臨機応変な対応
〈愛情〉
・生徒への寄り添い
・生徒からも学ぶ
〈理想〉
・豊かな人間性
・高い理想と使命感
・生徒を導く
〈共同〉
・地域を理解
・生徒･保護者の願いを形にできる

困難に直面しても、逃げない、ひるまない。
その上で、　自分らしさを生かし、協働しながら
しなやかに生き抜く人材の育成

校内研究
“カッコ良く”生きる生徒の育成
～道徳教育・学活の効果的実践～
・「ありがとう」
・「やってみよう」
・「なんとかなる」
・「ありのまま」

【育成を目指す資質･能力】
○ 多様な集団の中で協働できる力《信頼》
○ 自分をコントロールする力　　《挑戦》
○ 現代的な諸課題に対応する力　《判断》

生徒会活動
○スローガン『響心』
○「三正運動」挨拶･清掃･整列
思いやり・合唱
○ 三大行事
体育祭 前中祭 花を贈る会

信 頼
多様な集団の中で協働できる力

《他者の立場で物事を考える力》
《目標を達成するために他者と協働する力》

①安心して生活ができる集団育成
②自律した生徒を育てる生徒会活動
③思いやりの心の育成や規範意識の醸成
④人権が尊重される学習活動、道徳教育
⑤地域資源（人･機会）を生かす活動の推進

挑 戦
自分をコントロールする力

《思い・感情をコントロールする力》
《見通しをもって計画的に行動する力》

①自律・自立した学びを実現する取組
②主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造
③見通しと振り返りの習慣づくり
④特別支援教育の充実

判 断
現代的な諸課題に対応する力

《健康・安全・食に関する力》
《意見の対立や理解の相違を解決する力》

①多様な情報･考え方の存在を認識し、対話しながら最適解を導き出す道徳教育
②情報リテラシーを育成する情報教育
③心身の健康保持増進のための健康教育
④場面に応じて判断し、最善を尽くそうとする力を育成する安全教育

【教職員の資質能力の向上】	□校内研修の充実　□互見授業と共通実践　□コンプライアンスの徹底　□働き方改革
【地域と共にある学校構築】	□コミュニティ･スクール　□地域資源の活用　□教育活動の積極的発信
【教 職 員 の 行 動 指 針】	□凡事徹底　□生徒の安全と成長　□師弟共流　□和顔愛語　□組織対応

◎危機管理体制・対応の徹底
〈クライシスマネジメント〉
・危機管理の「さしすせそ」
・報連相と対応・確認
・記憶より記録
〈リスクマネジメント〉
・当たり前ＡＢＣＤの徹底
“当たり前の事を、馬鹿にせず、ちゃんとやる、それができる人”
・いじめアンケート、教育相談の実施
・個別支援体制の充実

◎教育公務員としてのプライド醸成
・不祥事の撲滅（道交法、再発防止岩手モデル）
◎教職員の同僚性の構築
・協働精神の発揮
⇒ 担任を一人にさせない副担任の役割
・個々の強みを生かし、弱みを補い、共に学び合う風通しの良い職場づくり
・ベテランからの継承と共に、若手の発想力を支援し、互いに支え合う学校づくり

◎業務改善の推進
（ワークライフバランスの推進）
・選択と集中の徹底
「どんな目的か、何が必要で、何が求められているか」
・在校時間短縮
⇒18 時以降の留守電設定、窓口の閉鎖
・定時退勤日、部活動休養日の遵守
・ICT ツールの積極的活用
◎教職員の健康管理
・早めの受診と健康的な生活習慣